

- 自然条件に即した効果的な防災対策・土地利用計画・開発計画などに寄与することを目的に、土地に備わる条件の一つである地形分類のデータを、主な平野部などを対象に「数値地図25000(土地条件)」として整備・提供しています。
- 「数値地図25000(土地条件)」は、国土地理院が持つデータを用いて、地形を形態、成り立ち、性質などに基づき分類した数値データ(GISデータ)で、土地が持つ災害リスクを面的に把握することができます。そのため、液状化ハザードマップ等を作成する際の基礎資料として活用されています。



地形分類データ整備前

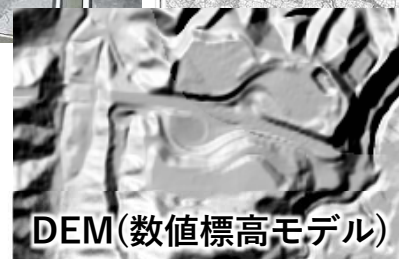
土地の成り立ちが把握できず、どこでどのような災害が起こりやすいかわかりにくい。



空中写真判読



旧版地図



DEM(数値標高モデル)

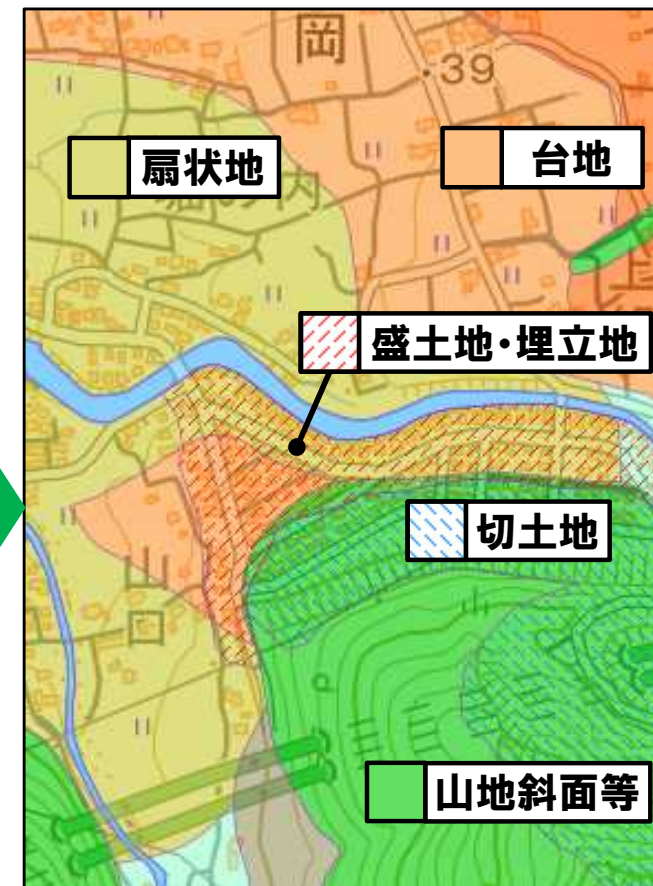
## <地形分類から想定される災害リスク>

### 扇状地

山麓の谷の出口から扇状に広がる傾斜の緩やかな土地。山地からの出水による浸水や、谷口に近い場所では土石流のリスクがある。比較的地盤は良いため地震の際には揺れにくい。下流部では液状化のリスクがある。

### 台地

周囲より階段状に高くなった平坦な土地。河川氾濫のリスクはほとんどないが、縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れや液状化のリスクは小さい。



地形分類データ整備後

土地の成り立ちと想定される災害リスクが面的に明らかになり、土地利用計画等の策定の一助に。